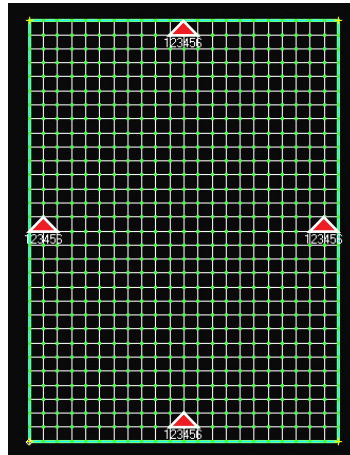


振動解析により明らかになった Diamond Formationの振動処理能力！

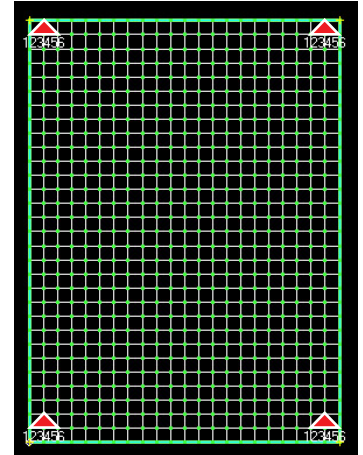
ホログラフィックサウンドを再現するために
スピーカーの不要振動を効果的に処理し、
本来あるべき音楽情報を取り出す事。
それがKRYNAの考えるスピーカースタンド
の役割です。

そのためには、音楽情報とは関係なく生じる
スピーカースタンドの固有振動、いわゆる
“鳴き”を可能な限り減少させる必要があります。

KRYNAのStageでは、底面でのスパイクの
支持位置をDiamond Formationとする事で、
従来の4点支持では不可能だったレベルでの
振動処理が可能になりました。

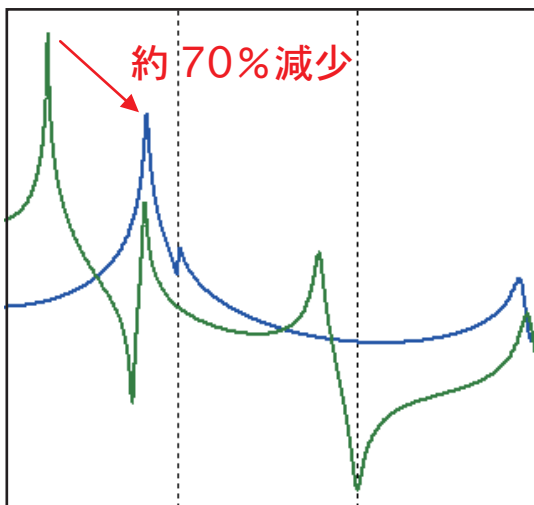


Diamond Formation



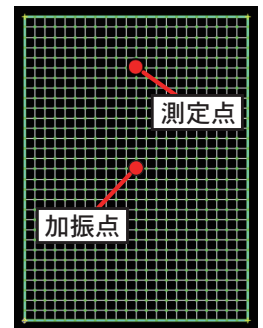
従来の4点支持

— 従来の4点支持
— Diamond Formation



左図では、底板の中央を加振した際の
測定点（前側中央）の振動の大きさを
従来の4点支持・Diamond Formation
で比較しています。

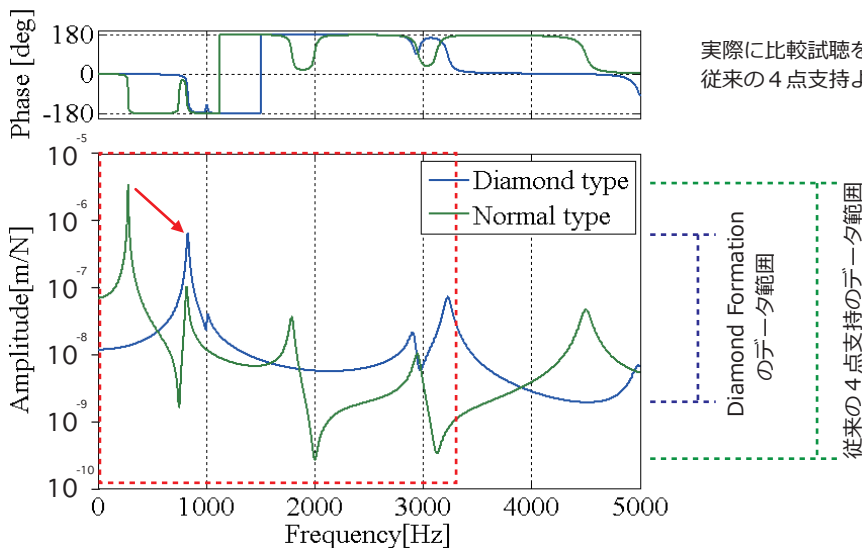
従来の4点支持（緑線）と比べると、
Diamond Formation（青線）の方が
データの下（振動のばらつき）が
少なくなっている事がわかります。



加振点と測定点

中でも、最も強く振動が起こる基本モードにおいて、2つのデータの差が
非常に大きく出ています。
Diamond Formationを採用する事で、底板の固有振動（鳴き）を約70%
減少させる事が出来ました。

実際に比較試聴を行うと、Diamond Formationの方が音の抜けが良く、
従来の4点支持よりも音場空間が明瞭に再現されます。



これは、スピーカーの振動およびスピーカースタンド自身の鳴きを効果的に処理する事で、音楽情報に含まれている空間情報をより正確に、はっきりと認識する事が出来る様になったためと思われます。

データ協力：
首都大学東京 機械力学研究室